

オルチャ渓谷のランドスケープデザインについて

日大生産工(院) ○林 はるか 日大生産工 渡辺 康

1 はじめに

イタリア共和国にあるオルチャ渓谷は、素晴らしい景観と多くのルネサンスの芸術家により伝播された注目に値する芸術の保存のために、『自然遺産』ではなく『文化遺産』として2004年7月2日に世界遺産に登録された。^{文1)}

本論は、オルチャ渓谷に関して、その歴史的経緯、ランドスケープ的価値はどこでどうしてきたのかについて明らかにすることを目的とした研究の一環である。

2 オルチャ渓谷について

トスカナ州シエナ県にあるオルチャ渓谷は、カステリオーネ・ドルチャ、モンタルチャーノ、ピエンツァ、ラディコーファニ、サン・クイーリコ・ドルチャの計5つのコムーネを含んでいる広い谷である。

元はシエナの領土であったオルチャ渓谷は粘土質の土壌のため耕作に向かない土地であったが約300年に渡る土壌改良の結果、図1のような田園風景が誕生した。現在はワイン用のブドウ畑が盛んである。そして風景を特に美しく魅せているのは道の両側に等間隔に植えられた糸杉である。^{文2)}

3 世界遺産登録について

オルチャ渓谷は世界遺産登録基準における以下の基準を満たしたとみなされ、登録がなされた。

- ・(4)人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。
- ・(6)顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信号または芸術的、文化的作品と直接にまたは明白に関連するもの(この基準はほかの基準と組み合わせて用いるのが望ましいと世界遺産委員は考えている。)

これらを踏まえることで、オルチャ渓谷が土壌改良後の風景が美しいといわれる理由がわかる。^{文3)}

図1 糸杉が等間隔に並ぶオルチャ渓谷の様子^{文4)}図2 5つのコムーネを含むオルチャ渓谷との関係図^{文5)}

- ① カステリオーネ・ドルチャ
- ② モンタルチャーノ
- ③ ピエンツァ
- ④ ラディコーファニ
- ⑤ サン・クイーリコ・ドルチャ

4 調査概要

事前調査は文献調査、現地調査を行った。文献調査では“オルチャ渓谷”に関する研究は該当しなかった。しかし土地収用法(1865)、都市計画法(1942、1967)、ガラッソ法(1985)、そして風景計画に関するイタリアの研究はなされている。オルチャ渓谷は特に風景計画に関与していると考え、その計画は以下の3つに分けられている。^{文6)}

- ① 1939年自然美保護法を根拠に、地方のモニュメント監督ないし地方自治体、市民団体が試みた風景計画。

About Design of Landscape in D'orcia Valley of Italy

Haruka HAYASHI , Yasushi WATANABE

- ② 1966年された南部イタリア29観光地域のための風景計画の提案。
- ③ 1985年にガラッソ法に基づき、策定された州レベルの風景計画。^{文7)}

現地調査では図3のように2016年5、6日トスカーナ州モンタルチーノ付近であるオルチャ渓谷のランドスケープを撮影した。

図4はトスカーナのアイコンとなった糸杉林の写真である。図3に比べ、数十本の糸杉が故意的に植えられたように考えられる。



図3 モンタルチーノからシエナへと続く道でのオルチャ渓谷(2016年6月6日撮影)



図4 トスカーナのアイコンとなった風景^{文8)}

6 事前調査を終えて

オルチャ渓谷は300年の土壌改良を終えてからその風景が美しいとみなされ、世界遺産に登制定されることによってガラッソ法による開発を免れた。しかし土壌改良される前の状態の資料や土壌改良を行うきっかけとなった経緯の資料は我が国では見つからなかった。

また現地で撮影された図3と図1・図4を比較すると、5つのコムーネをまたぐオルチャ渓谷では場所によって糸杉の植え方やランドスケープ、草原地帯と土の比率が異なると考えられる。最小限の人工物で作り出されたオルチャ渓谷には雑草も生えていないが、緩やかな地形を

そのまま生かすランドスケープデザインのやり方は我が国での資料が極めて少なく、“オルチャ渓谷”の検索ではヒットしないことから現地での調査が望ましいことがわかった。

300年に渡る土壌改良はどのようなものか、美しい景色が広がるオルチャ渓谷の牧草、ブドウ畑と糸杉、土壌改良の関係を詳しく明かしていき、ランドスケープデザインを設計につなげていきたい。

(参考文献等)

- 1) 『イタリア政府観光局 (ENIT) 』
<http://visitaly.jp/unesco/val-dorcia>
- 2) 『ヴァル・ドルチャ』 <https://ja.wikipedia.org>
- 3) 宮脇勝、西村幸夫、イタリアにおける風景計画の展開 日本建築学会径角形論文集、第466号、123-132、1994年12月
- 4) 『オルチャ渓谷』 <https://www.bing.com/search>
- 5) S D 2008 発信するイタリアの小都市、鹿島出版会、2008年12月、p 68
- 6) 宮脇勝、西村幸夫、イタリアの都市計画法制度の基礎的研究—土地利用法(1865)、都市計画法(1942、1967)、ガラッソ法(1985)を中心として—
- 7) 文3)と同様
- 8) 文5)と同様